

神社名：大鷲神社      おおとりじんじゃ      (大黒天社)

住 所：練馬区石神井町3-25-26

調査月日：2020年1月4日

調査参加者：栗田、菅野、木村、梅田、宮崎、小幡、浅見、竹内、小林、木村（怜）

写 真：



由来など： 創立年代不詳。「東京都神社名鑑」によれば、日本武尊が東国の蝦夷征伐のため石神井村を通過の折、立寄られたので、後に村人がその高德を慕って奉祀したのに始まるという。またこの地一帯は古くから御鷹場として有名であり、昭和の初め当地の人が甲府方面で射止めたという大鷹の剥製を、神社の大鳥に因むものとして奉納されたと伝える。

合祀の大黒天社については、境内にある大国主神御由来碑（昭和7年）によれば、昭和4年（1929）、石神井駅前20会員が協力して旧下石神井1317番地に社殿を建てて、大宮黒塚山から分霊勧請、昭和7年に現在地に遷した、とある。社殿には大鷲神社と大黒天社の社名札が掛かっている。境内石造物は大鷲神社の社名碑（昭和11年）と鳥居（昭和15年）、水盤（年代不明）だけである。

商売繁盛の神として、酉の市には、地元を中心に近郷から多くの崇敬者が参集する。境内樹木は少なく、目立つのはサクラである。（「練馬の神社」より）

祭神など：日本武尊、大国主神

空間位置・面積等・植生など：駅近くの商店街の中にあり、境内はコンクリートで敷き詰められている。周囲に樹木がしょくさいできるように少々開けてある。

シラカシ、シイを除いて植栽と思われる樹種が立木として両脇にある。ソメイヨシノが目を引くくらいであるが、正殿向かって右後ろに大径木の切り株（樹種不明）があり、かつての神社のありようが偲ばれる。

地図上の位置：



平面図：

